

別記  
第1号様式（第14条関係）

### 環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	令和3年 7月 26日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府長岡京市東神足2-1-1	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 三菱ロジスネクスト株式会社 代表取締役社長 久保 隆

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001：2015／JIS Q 14001：2015
適 用 範 囲	三菱ロジスネクスト株式会社 本社・京都工場、滋賀工場、安土工場、羽生工場、 ニチユマシナリー新川崎事業所、東日本統括部、 オンサイト研修センター、ユニキャリアハンドリングシステムズ
導 入 年 月 日	2005/9/16
認 証 番 号	JQA-EM4909
基 本 方 針	添付のとおり（環境マネジメントマニュアル抜粋）
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	2021年度から2023年度の3か年目標（環境目標）を次のように定めた ・ 環境活動を事業活動のひとつとして位置づける ・ 製品使用によるCO2の削減貢献量の算出方法や基準を定め、情報開示を行う ・ グリーン調達を促進 ・ 2023年度の廃棄物排出量原単位を、2020年度比で1%改善する ・ 環境啓蒙活動を積極的に行う ・ 2023年度の国内のVOC排出量原単位を2020年度比で改善する ・ 2023年度のCO2排出原単位を2020年度比で3%改善する ・ 2023年度の水使用量原単位を2020年度比で1%改善する ・ 製品/部品輸送で発生するエネルギー、廃棄物について原単位で前年度より改善する
目標を達成するための取組の内容	・ グループ会社の「環境内部監査」 ・ グループ会社の環境活動のレベルの向上 ・ 開発車の製品使用時のCO2排出量を前モデルより削減する ・ 製品に含まれる環境負荷物質低減推進 ・ 有価物、古紙を除く廃棄物排出原単位で改善する ・ VOC排出量の適切な把握 ・ 地域貢献活動への積極的な参加 ・ エネルギー、水使用量原単位を改善する ・ 設備投資や工数低減活動実施 ・ 梱包方法見直し、梱包材再利用、通い箱化推進
目標を達成するための取組の進捗状況	・ グループ会社の環境監査結果の情報共有により意識向上を図った ・ 製品使用時CO2排出削減量の基準づくり継続 ・ SVHC調査の実施率の見える化 ・ 「禁止物質の不使用・非含有宣言書」提出率向上 ・ 廃棄物の分別啓発 ・ 負荷低減に寄与する設備投資の実施 ・ 漏水の早期発見と修理の実施 ・ 簡易梱包の推進、モデルチェンジ車に関わる部品の通い箱化
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	2020年度までの成果、評価については次のとおり。 ・ グループ全体として環境意識向上が見られる ・ 原単位で廃棄物排出量は悪化傾向 ・ 原単位でCO2排出量は改善傾向 ・ 原単位で水使用量は悪化傾向 ・ 製品使用時CO2排出削減量の基準づくり継続
事業活動に係る法令の遵守の状況	環境関連法規制登録簿を作成し、毎年、順法性評価を行うとともに、適宜、法規制登録簿の見直しを実施している。 行政当局からの違反の指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価及び見直しについては、年1回、3月にマネジメントレビューを実施している。 前年度において、現行の目標及び取組内容により一定の成果が見られたことから、今年度も同一のシステムにより運用することとした。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。